

第5回「津波予測技術に関する勉強会」議事要旨

1 開催日および場所 平成22年2月23日（火）気象庁大会議室

2 出席者

座長 佐竹健治	東京大学地震研究所教授
阿部勝征	東京大学名誉教授
今村文彦	東北大学教授
河合弘泰	(独)港湾空港技術研究所海象情報研究チームリーダー
越村俊一	東北大学准教授
谷岡勇市郎	北海道大学教授
都司嘉宣	東京大学地震研究所准教授
平田賢治	気象庁気象研究所地震火山研究部主任研究官
気象庁地震火山部	伊藤地震火山部長、宇平管理課長、関田地震津波監視課長、 長谷川国際地震津波情報調整官、高山津波予測モデル開発推進官、 尾崎地震津波監視課長補佐、西前地震津波監視課調査官 他

3 議題

- (1) 遠地地震の津波予測のための量的津波予報データベースの改善について
- (2) 平成21年度に発表した津波注意報等の評価について
- (3) その他（話題提供）

金田善行「海底ネットワークと津波シミュレーション」

林 豊「津波注意報の解除タイミング改善のために減衰過程の特徴を活用する方法の提案」

4 議事概要

事務局から遠地地震の津波予測のための量的津波予報データベースの改善について、資料1により計算格子サイズ大きさに関する調査結果新しい遠地津波用量的津波予報データベース構築に向けた改善案を、資料2により平成21年度に発表した津波注意報等の評価について説明した。谷岡教授（北海道大学）から遠地津波の数値計算に関する報告があった。また（独）海洋開発研究機構から「海底ネットワークと津波シミュレーション」について、気象研究所から「津波注意報の解除タイミング改善のために減衰過程の特徴を活用する方法の提案」について話題提供があった。出席者からの主な意見は以下のとおり。

○ 遠地津波用量的津波予報データベースの改善について、今回の資料として示された、格子サイズを小さくした場合に得られた計算結果については、原因が格子サイズを小さくしたことにあるのか、海底地形データの作り方であるのかを確認する必要がある。

○ 5分と1分の格子サイズそれぞれについて、摩擦が効く浅い格子点がどの程度含まれているかを確認すべきである。

○新旧の計算方法について、検潮所の波形だけでなく、津波の予測に用いる沖合の予測地点での津波高さも比較するべきである。

○ 遠地津波用量的津波予報データベース構築のために使用する海底地形データについては、不自然なデータが含まれていないかどうかのチェックを行うことが重要である。そのために微分をとって調べるのが有効である。

○ 新しいデータベース構築にあたり、地震の震源の深さについては、過去の地震についての統計を手がかりとして、検討すべきである。

○ 今年度発表した津波注意報等については、概ね良好との評価できる。

○ 遠地津波については津波警報や注意報を発表している時間が長い。できるだけ早く解除するというのも検討課題である。

○ 気象庁の津波警報や注意報の解除の考え方は、受け手である住民の考え方と少し違うので、自治体も含めてあらためて説明が必要ではないか。